

村の春耕増産計画

先ず稚蚕飼育所

増築工事予定決る

一三階百五十坪

河糸相場の値上がりと共に養蚕景

気も戦前に立ちかえりつゝある時

に、稚蚕飼育所も一年毎の掲立瓦

数の増加に伴い来年度の掲立瓦数

では現在の稚蚕飼育所では狭き

に、建築計画案が出来たのである。

現在の稚蚕飼育所では狭き

に、建築計画案が出来たのである。

その案と云うのは、

現は現在の農業倉庫と購買倉庫

の間が九間余の空地があり、これ

を利用して東西に連絡する。

建物の構造は煉瓦造りで地下

一階で延二五〇坪である。

工費積り額は坪当一万五〇〇

円と見て、一八〇坪の四百五十

間で、内飼育室五間一十五間の一

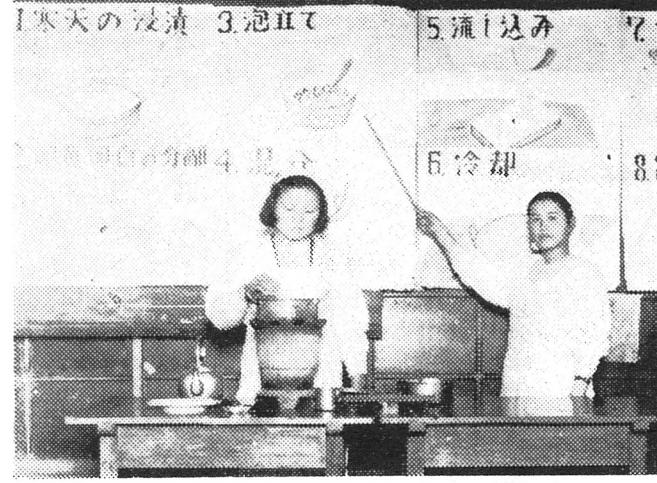
稻作を回顧して

龍丘地区農業改良事務所

嶽野技師

稻作を回顧して

兩 団 体 長 感 想 を 語 る



チモストトレーレーション

①自分の水田の土壤状態力の

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

風の音

小学校四年中組 木下千佐子

ねておつたら風がびゅうびゅうと
さきつけてきた。雨も根をたた
きはじめた。私はびっくりして目
をさまでそのままその音をきいていた。

心配でねむれない。弟やいもうと
はすすうといふ音でねむっている
その時弟がへんじよにおきたので
私がふとんに頭をかくしてねい
なつているのでねられない。その
時、時計を見たら一時二十五分で
した。ねようと思つてもなんだか
心配でねむれない。弟やいもうと
はすすうといふ音でねむっている
その時弟がへんじよにおきたので
私がふとんに頭をかくしてねい
るようすをしていたら弟はねい
ると思つておこなつた。おか
あさんたちもすうすうとねでいた
その時弟は私のふとんをとつて「
ねえちや」といつ大きく声を出
したので、みんなびっくりしてお
きた。電気がきえていたので暗
てそこらはわからなかつた。おか
あさんが弟をへんじよにつれて
あきがんが弟をへんじよにつれて
つてやつた。おかあさんが「もう
急いで遠足の用意をしてくれた。
夕飯を食べながら「あしたは晴る
見た。「遠足についてはくれし
は早くねた。夜中にこんなゆめを
つて山に登つて寝を食べた。

遠足

四年中組 小林道人

遠足は十一月十一日であった。前
の日、学校から家にかえつて、母
に「あしたは、遠足で二つの山へ
くんだつ」といつた母は「遠
足」といつておどろいた。母は
ひもぎきを樹てまたが建築技
術が進歩するに随つて、之の宮殿
の巡禮は駄馬界山に及び附近に
建てました。現在「神殿原」(寺領の水田(経田)を有し専属の
一族や側近の有力な将軍を派遣して
東国の大族に備える出先機関を
設置したのは、御坂船の麓で天龍
川の舟便があり、地勢よく気温
和だこの地(龍丘村)でした。



桐林

たゆう物語

中田美穂

を見るとはつきり判るが、殊に桐
林は伊賀良村三百市場から引水し
て來て、村落の中央部の水田に供し
た跡と地名が判然としています。
本拠の住居が出来ると同時に氏
族の祖先拜礼の場所即ち神カキ(一
度川路の中央に一寺が建立)

昭和28年1月20日(火曜日)

原稿募集 館報発行予定

二月二十日

種別

文部省作品(詩、短歌、俳句)
等
生活雑記、私の研究意見
成らく原稿用紙を使用して
下さい。

宛先

館長 公民館事務局
役場 編輯委員
投稿の採否、字句修正は御
一任下さい。

漢詩

升石山人



帰農

S生【二十一歳】

もはや私は村へ帰つて来た
農業に従つ事を拒む心よ。

私は小高いこの山里で一人鍛を
振る。

だが、その中から、
それが私の小さな身も心も「溺す
る程」湧いて
しばし生きる事に失望する。

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

み

</